

令和3年度 事業計画

「故きを温ねて新しきを知る」と
「新しいみどりの空間の模索」に加え、
「魅力ある活動と運営をもって会の活性化を図り、財政の健全化を目指す」
の3大テーマを持って活動を行う。

2020年東京オリンピック及びパラリンピックは 新型コロナ対応の下に本年7月、8月に開催予定。また、2025に大阪・関西万博の開催、2023年には我が国に初めて公園が誕生した太政官布達以来150年の節目を迎える。これを機に造園の技術と、それらから醸成された思想を声を上げてアピールしていくべき状況にあるととらえたい。

NPO国際造園研究センターは、新型コロナ対応で人と人とのつながりが希薄にならざるを得ない状況下で、目前の上記の3大イベントへの関りを「関西のみどりのプラットフォーム」としての役割を果たすべく、大阪から、日本から何を発信するかという問題に取り組むまざるを得ない。

今はできることから、3つの大テーマを引き継ぎ見据えながら活動を探りたい。

(1) 研究調査について

ア) 植物の研究調査として、太政官布達150年の古来松林で著名な浜寺公園を現場としての松林の保全育成の方策を検討する。

—浜寺公園では松管理、バラ管理に詳細な作業の報告が見られる。

イ) 万博に向けて緑の情報を収集し、その普及を図る。

大阪万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」をふまえ「みどりの街づくり」と大型防災を検討する。

—昨年は大阪府の若手職員とともに2025に向けての提案勉強会を行った。

ウ) 清水正之氏の業績及び資料を生かし、太政官布達150年対象公園(浜寺、住吉)のアーカイブを構築する。

一住吉公園では指定管理者の冊子「歴史探訪」の作成に協力寄稿を行った。

以上、研究調査をおこなうにあたり、大学等他団体との協力関係を持ちながら調査研究を進める。

(2) 研修会及び講習会について

ア) 第7回庭園文化塾の開講。各会員や一般の方々にも呼びかけ、座学研修、庭園見学に加えて庭園管理実習を試みる。また、お茶など日本文化の理解を深める機会をもうけ、その風情と真髓に触れ、塾生同士の交歓と技術の向上への一助となるよう企画運営する。

一塾生には、過去をさかのぼって現地実習など参加できなかった研修・見学への参加を呼び掛けている。

イ)、二木サロンや「関西みどり探訪」、公園アーカイブの研究整理を行う中で、渦中の人が集まり、共有し抱える問題や技術の交流の場を持つ。またサロンの運用により日曜サロンも開設する。

(3) 緑化及び公園利用促進事業

ア) 「みどり」とはなにか?! 次の世代に、創り引き継ぐ街を想起し、「みどり」の教科書作りを目指す。また都市緑化の推進に関わる団体との共同事業を行う。

イ) 公園緑地の利用促進及びパークマネージメントを企画参加していく。「関西みどり探訪」は公園やみどりの拠点とその資質が結び付く周辺のまちを地理的歴史的な面を掘り下げ、ぶらり探訪する。

一昨年度は濱寺公園および久宝寺緑地とその周辺の歴史的な反法を行った。

(4) 国際事業について

ア) 海外での事業参加の情報を共有し、海外の庭園や公園事情の交換を行うと共に、まちづくりを通じての海外との文化交流、また協力の要請がある場合、極力技術的支援を行う。

イ) 国際的に関心の深い日本庭園に関する調査やシンポジウムなどの企

画参加を行う。

(5) 広報活動について

- ア) 活動状況を一般に広報し、研修会や講演会開催に反映させる。

- イ) 各事業の参加者の感想や研究を会報に掲載するため、HPを積極活用し公募する。HPには会員からの声や、会員の取り組む事業を紹介するコーナーを設ける。